

地元の海岸をきれいに ～横須松原の育樹活動～

横須から金磯にわたる海岸には江戸時代に植えられた松の大木が1km余り続いていましたが、30年ほど前から松食い虫の被害を受け、わずかに残った松が点在するだけになっていました。そこで、横須海岸の東端の約270mの土地を提供してもらい、多くの団体や市民ボランティアの協力を仰ぎながら、生徒や職員で2ヶ月かけて整地し、平成11年2月20日に松の苗木を500本植樹し、以降、生徒会が中心となって参加者を募り、育樹活動(草刈り・水やり・清掃等)を行うようになりました。

今年度の松原育樹ボランティアでは日本財団の「海と日本PROJECT」と連携し、活動を行いました。さらには、国土交通省小松島港湾・空港整備事務所、NPO法人などの支援を受けながら、港の町小松島の活性化や環境美化に向けた取り組みも続けています。

今後は自然や地域を大事にしていくことを私たちがPRしていくことも課題だと考えています。これからもご協力よろしくお願ひします。

執筆者：徳島県立小松島高等学校



活動場所



懸命に雑草を刈る生徒達

港お仕事取材 ～クルーズ船が来る裏側で～

皆さんは港に携わる仕事についてどれくらい知っていますか？本コーナーでは、港に携わる方々の仕事について数回に分けて紹介します。今回は、昨今話題のクルーズ船寄港にあたり、奮闘している徳島県県土整備部運輸政策課港にぎわい振興室のお仕事について、詳しく教えて頂きました。

Q1 クルーズ船寄港にあたっては、どのようなお仕事をされていますか？

A 私たちはクルーズツアーを行う船社や旅行会社に徳島県の魅力をPRしたり、クルーズ船が寄港する際の岸壁での受け入れ準備や寄港当日におけるお出迎え・お見送りイベントを運営する等、クルーズ船の誘致から寄港当日の対応に至るまで、様々な仕事をしております。

Q2 船社や旅行会社にクルーズ船誘致を行う際、具体的にどのようなことをするのでしょうか？

A 国内外の船社や旅行会社に赴き、徳島県の観光地やツアーの候補地、特産品を紹介したり、受け入れ可能な岸壁や中心市街地までの交通アクセス等を伝え、徳島県に少しでもクルーズ船が来てもらえるようにセールスをしています。また、観光地やツアーは「徳島ならでは」のものが求められ、特に阿波おどりや鳴門の渦潮、最近では大塚国際美術館が人気です。

Q3 ポートセールスで苦労したことはありますか？

A 海外へセールスに行った際、海外から見て徳島県の認知度はまだまだ低いと実感させられます。また、歴史や文化体験を好んだり買い物を楽しむ等、お客様によって需要が異なるため、何を求めているのかを把握することがポートセールスを行う中で重要だと考えております。

Q4 クルーズ船の受け入れ準備とは、具体的にどのようなことをしていますか？

A 当日のバスや警備、誘導員の手配に加え、テント、物販コーナーの設営、船のお出迎え・お見送りイベントの実施等をしております。

Q5 クルーズ船対応で苦労したことはありますか？

A 港からの二次交通の確保や、外国人観光客の英語等での問い合わせに対して、スムーズに対応できないことに苦労することがあります。

Q6 やりがいを感じたことや、今後の意気込みを教えてください。

A クルーズ船の寄港に当たっては、回数を重ねるごとに工夫を凝らし、ボランティアに連携をして頂いたり、学生に船内寄港式典の司会や物品の販売対応をしてもらっていました。また、市町村や関係団体の方からイベントのアイデアを頂いたり、様々な方々の協力を得ながら改善していき、少しずつ観光客の反応が良くなっていることにやりがいを感じています。今後も、市町村や関係団体等と連携し、クルーズ船の誘致やクルーズ船寄港時の受入れ体制を充実するよう取り組んでいきたいと考えています。



カラフルなテントでお出迎え
販わう物販ブース



10月18日 MSCスプレンドィダ寄港
阿波おどりでお見送り

取材日：10月21日 取材先：徳島県 県土整備部 運輸政策課 港にぎわい振興室 取材者：小松島港湾・空港整備事務所 企画調整課